北海道スキー指導者協会の歩み　Ⅲ

＜シュプール 38 号掲載＞

藤 島　勝 雄　編著

昭和 56 年 10 月、13 年間の休止から目覚めた北海道スキー指導員会は、「シュプール発行」と「集い」を活動の柱に据え、「指導員制度 50 周年記念 第 4 回北海道スキー指導員会の集い」を成功裡に終えることが出来、このことが全道各地の指導員会から認知され会員増に繋がっていった。

しかし、昭和 62 年、文部省から出された「文部省認定社会体育指導者資格付与制度」は、指導員会の存続にも関わる大問題として議論されていく。

１１、特集＜指導員制度 50 周年＞

H1,9,30	シュプール第 17 号（復刊 10 号）発行 ・ 特集＜指導員制度 50 周年＞ スキー指導員制度と北海道　会　長　栗林　　薫 記念講演＜第 1 回指導者講習の前後＞　名誉会長　柴田　信一 座談会＜これからの指導員と指導員会＞ 回想 50 周年　6 本 先達をたたえて　5 本 表彰者一覧表 ・ 特別寄稿＜スキー回転用語についての雑感＞　ミウラドルフィンスキー　三浦　敬三 ・ 研究　7 本 ・ デモ選・技術選　3 本 ・ 報告「オーストラリア特別研修」など 4 本 ・ 随想　6 本 ・ 支部だより　2 本 ・ 訃報（この号より掲載始まる） ・ 事務局より
	※　この年、平成元年 7 月開催した＜指導員制度 50 周年記念事業（前回掲載）＞を大々的に特集している。これまで、指導員制度に関する記念行事を一度も実施していなかった道指導員会としては、相当に力を入れた行事であったし、シュプールでの大特集（全 160 ページ中 60 ページ）であった。 ①柴田先生の記念講演（前回掲載） ②座談会　・指導員今昔　・どうなるこれからの指導員 ・今指導員に問われていること　・これからの指導員と指導員会 等々が熱く語られている。何れも今日的課題である。 ③表彰　初めての記念事業ということで、昭和 14 年 12 月から 31 年 3 月までに合格した 147 名の表彰者名を掲載している。これ以降、本会はこの事業

	を継承して 10 周年ごとに「指導員表彰」を実施している。
H1,10,1 北電北２条クラブ（札幌）	平成２年度代議員会及び支部長会議 (63 支部　5,873 名) （代議員 21 名、委任状 21 名、役員・支部長 19 名） ・ 一般活動報告 ・ 活動方針＜行動する指導員会＞ ・ 日本スキー指導員会報告 日本スキー指導員会総会及び指導員制度 50 周年（8/27･東京） 50 周年記念テレホンカード 500 枚、道指導員会が販売協力 会長交代　松浦益司郎→菅　秀文 ・ 予算 4,257,939 円（うち会費 700 円×5,200 名＝3,640,000 円） ・ 役員改選 名誉会長　柴田　信一 会　　長　栗林　　薫 副 会 長　佐藤　哲郎、速水　　潔、小室　浪一、坂井　敏夫、中川伊佐美 監　　査　二瓶　康典、新田　利雄 幹 事 長　近藤　　晃 幹　　事　福地　　白（総務部長）、遠藤　明忠（総務副部長） 中川　　明（事業部長）、戸塚　浩司（事業副部長） 菊池真一郎（広報部長）、中尾　　誉（広報副部長） 飯田　誠一（会計部長）、竹内　恒夫（会計副部長） 鈴木　清二、桜井　文雄、伊藤　和彦、松川　　恒、浜　　司 田尻　将純、佐藤　政之、金子　重男、安田　政明、原　　栄 大黒善太郎、飯島　　洋、大塚　　博、菊田　哲夫、佐藤　　滋
H2,2,12 朝里川温泉スキー場	オーストリアスキー特別研修会 講　師：エゴン・ヒールツェッガー、 イレーネ・バインクネヒト（女性） 参加者：25 名
	※　講師 2 人は、次回インタースキー・サンアントン大会のオーストリア代表デモであり、イレーネ嬢は、オーストリア特研で初めての女性インストラクター。「長身でチャーミングで、そして男性顔負けのシャープなスキー技術を示範」と、事業部は報告している。

１２、ハンネス・シュナイダー、来道６０周年記念

H2,7,28 ニュー北海ホテル(旭川)	第 5 回 北海道スキー指導員会の集い（250 名参加） ―ハンネス・シュナイダー生誕 100 年、来道 60 周年記念― ・ 講演＜我が国のスキーとハンネス・シュナイダー＞　　三笠宮寛仁親王殿下 「今年 2 月、ハンネス・シュナイダー生まれて 100 年、来日 60 年の記念式典をやりました。その時速水先生から「夏に『指導員会の集い』を旭川でやるのでハンネス・シュナイダーの話をしてほしい」と半年前からのお約束でした。 私の手元にあります幻の映画『狐狩』をご覧になると、70 年前に撮られたこ

	の映画が現代でも有用で、我々スキー指導者が目を見張らなければならない。あの当時からこんな技術が、こんな映写技術があったのか。更には、驚くべきことに現在我が国に定着してきたフリースタイルのようなものすら入っている。 　このあと映画を上映致しますが、私は極力簡単にハンネス・シュナイダー及び我が国のスキー界に簡単に触れ、今日は何はともあれ映画の方に重点をおいて頂きたいと思います。（以下略）」 ・ 映画「狐狩」 　スイスアルプス・エンガディン地方、狐の役になり逃げ回るシュナイダーの見事なスキー技術、狩人になって追いかけるスキーヤーの集団滑降など、当時のスキー技術がみられる貴重なフィルム。
	※　ハンネス・シュナイダーを簡単に紹介するとして始まった講演は、多岐に亘りスキーに対する情熱と高邁な見識には驚かされる。「明治 44 年、日本に初めてスキーを伝えたテオルド・フォン・レルヒ少佐は情報将校であったのでは？」「シュナイダーは後年、アメリカに亡命した」「クルッケンハウザー教授は、国策上ローテーションを駆逐するため“奴凧スキー”のようなオーバーな姿勢を教えたが、日本のデモ達は皆、これが正しいスキーテクニックだと思ってしまった」 　中でも特に印象深い話は、クルッケンハウザー教授が「現在、私が貴方達に教えているテクニックは、今日の最高の技術・指導法だよ。しかし、明日になったらもっとよりベターな方法が見つかるかもしれないよ」。今、指導の現場に携わっている者の一人として肝に銘ずべき言葉である。
H2,9,29 りんゆう観光（札幌）	平成 3 年度 北海道スキー指導員会総会及び支部長会議（65 支部　6,002 名） （代議員 25 名、委任状 15 名、役員・支部長 16 名） ・ 一般経過報告 　道立図書館から「シュプール寄贈」の依頼があった。 ・ 日本スキー指導員会報告 　道指導員会として「社会体育指導者資格付与制度の凍結と、現行指導員・準指導員制度の堅持・存続」を主張した。 ・ 準指導員検定合格者にシュプールを贈る。 ・ 予算 4,359,779 円（会費 700 円×5,800 名＝4,060,000 円）
	※　再出発後、「集い」と「指導者制度 50 周年記念行事」と併催し、「指導員表彰」を実施することにより全道の支部から認知され、この年、加盟 65 支部を数え登録会員が 6,000 人を超え益々指導員会活動が活発化していった。 ※　「資格付与制度問題」は、先に栗林会長も述べているように、50 年営々と築き上げてきた「指導員制度」の崩壊の危機を感じての反対であった。このことはのちのち、延々と議論・混迷が続く。 ※　この年から、道立図書館、準指導員検定合格者へのシュプール贈呈が始まり、現在もこのことは続いている。
H2,9,30	シュプール第 18 号（復刊 11 号）発行 ・ 特別寄稿＜ボランティアこそ誇り＞ 　日本スキー指導員会副会長・千葉県スキー連盟会長　　金井英一郎

	「（前略）都会のどこかのプールに態度の悪いインストラクターがいて、それが或る教育ママの逆鱗に触れた。『許せないッ、あんな男。一体どんなライセンスを持たせているの』と文部省の高級官僚の夫を責めたところからこの制度が始まった、と専らの話。それなら、プール業界を痛め付ければよかったのに。（中略）資格付与‥‥授け与える‥‥役人言葉、私、嫌いですねぇ。どうしましょうねぇ。『付与は不要だ』と叩きつければ、絶対仕返しがくると思いますよ。すると、困る人がいっぱい出るんです。各論で一生懸命、条件を主張し続ける。これしかないでしょうねぇ、結局。しかし、貫くべきはただひとつ。『ボランティアこそ誇り』の立場です」 ・ 研究　7 本 ・ 紹介･報告「オーストラリア特研」など　5 本 ・ 随想　11 本 ・ 支部だより　6 本 ・ 事務局より
	※　金井会長独特の語り口。「資格付与制度」について、冗談混じりながら皮肉を込めてわれわれ指導員のボランティア精神を代弁している。

１３、「資格付与制度移行講習会」始まる

H2,12,2 車山高原スキー場	「文部省認定社会体育指導者資格付与制度移行講習会」始まる
	※　昭和 62 年に出された「資格付与」の移行講習会がついに実施された。テキストは、1020 ページの赤布張りのあの「Ｃ級教師教本」である。われわれ北海道所属の専門委員･技術員は全員受講であった。都連所属は全員退席した。
H3,3,2 朝里川温泉スキー場	オーストリアスキー特別研修会 講　師:：エゴン･ヒールツェッガー（第 14 回インタースキー代表デモ） 参加者：20 名
H3,4,22 北電北２条クラブ	H3 年度第 1 回常任幹事会 ・ 車山での中央研修会で､道の専門委員･ブロック技術員が移行講習会を受けた件で教育部とコンタクトがとれていない現状を反省
H3,8,3 ホテルノースシティ(札幌)	第 6 回北海道スキー指導員会の集い（120 名） ・ 講演＜第 14 回インタースキー紀行＞ ＳＡＪナショナルデモンストレーター　　吉田　幸一 「'79 年蔵王、'83 イタリア、'87 バンフ、そして今回('91)のサンアントンと 4 回連続参加した。最初は各国種々の特徴があり、フランスとかオーストリアの滑りにそれぞれ特色があったが､回を重ねていくと徐々に各国とも変わりが無くなってきた」「北海道からは、私と石井君、我満君の 3 人が参加した」「ナショナルチームデモは、本番に強い選手が多かったのか、練習よりも上手に出来たのではないかというコーチ陣の話でした」 ・ 映画「狐狩」 ・ 受賞披露 安全功労者内閣総理大臣賞受賞　　北海道スキー指導員会 速水　潔 副会長

	※　このサンアントンのインタースキーには、私も初めて SAJ 公式視察団の一員として参加して、オーストリアチームデモの技術力に圧倒され「流石、日本にスキー産業（技術・スキー板）を輸出しただけのことはある国だ」と感心したことが思い出される。 ※　映画「狐狩」は、前年の旭川大会で好評を博したので、札幌の指導員の皆様にも見てほしいと 2 年連続の上映となった。幻の映画、また上映の機会があれば。
H3,9,29 北電北 2 条クラブ	平成 4 年度北海道スキー指導員会代議員会及び支部長会議（66 支部　6,401 名） （代議員 31 名、委任状 24 名、役員・支部長 25 名） ・ 一般経過報告 ・ 日本スキー指導員会報告 資格付与制度は、SAJ もやっと本腰をいれてゼロからスタートしてくれて移行問題は停止となった。 ・ 「資格付与についてアンケート」実施 ・ 予算 4,787,011 円（うち会費 700 円×5,900 名） ・ 役員改選 名誉会長　柴田　信一 顧　　問　佐藤　哲郎、中川伊佐美 会　　長　栗林　　薫 副 会 長　速水　　潔、小室　浪一、坂井　敏夫、二瓶　康典、東野　靖信 中山　　浩 監　　査　新田　利雄、石井　年男 幹 事 長　近藤　　晃 幹　　事　福地　　白（総務部長）、遠藤　明忠（総務副部長） 中川　　明（事業部長）、石田　勝洋（事業副部長） 菊池真一郎（広報部長）、中尾　　誉（広報副部長） 飯田　誠一（会計部長）、　串　　力男（会計副部長） 鈴木　清二、桜井　文雄、伊藤　和彦、佐藤　政之、吉田　幾郎 金子　重男、安田　政明、原　　栄、大黒善太郎、飯島　　洋、 大塚　　博、菊田　哲夫、佐藤　　滋、原　　龍三、三上　　恤 鈴木　忠芳、 ※　支部数、会員数が増え、代議員会への出席も多くを数えるに至った。それにつれて、理事も全道の広範囲の地域から選出されることとなった。
H3,9,28	シュプール第 19 号（復刊 12 号）発行 ・ 特別寄稿＜いわゆる「社会体育指導員制度」について＞ 東京都スキー指導員会会長　田　英夫 「文部省体育局の担当者が、この制度のきっかけは“水泳”であったことやスキーに指導員制度があることを知らなかった、と話している」「日本のスポーツ界ではもちろん、世界のスキー界にも誇れる立派な指導員制度が確立している日本のスキー界に、今度のような制度が必要だろうか。全日本スキー連盟はどのように考えているのか。現在の指導員制度に何か欠陥でもあると言うの

	か。全日本スキー連盟は、自らの歴史に誇りと自信を持ってほしい。そして文部省の提起したこの資格付与制度を拒否していただきたい」 ・ 特別寄稿＜21 世紀におけるスキーを考える＞ ―今こそ問われるスポーツの危機― 国際スキー指導者連盟副会長・福岡スポーツ研究所長　福岡　孝純 ・ 特集インタースキー　3 本 ・ 研究　6 本 ・ 紹介･報告「オーストラリア特別研修」など　3 本 ・ 随想　17 本 ・ 『“一般スキー八十年の歩み” 栗林　薫 編著」 発刊 ・ 支部だより　4 本 ・ 事務局より
	※　「資格付与問題」について言及したのは、今回の田東京都指導員会長で 3 本目（栗林会長・金井千葉県会長）である。いずれも他の競技団体と違い、伝統ある「指導員制度」の“（栗林先生の言う）危急存亡のとき”を感じての発言である。

１４、資格付与制度、混迷続く

H3,12,14 定山渓ホテル	＜道連教育本部理事と道指導員役員との話し合い＞ ・ 出席役員 教育本部：北河本部長、大野･小林副本部長、安戸・大高・粕加屋・吉田理事 古谷専門委員、石水企画部長 道指導員：栗林会長、二瓶副会長、近藤幹事長、菊池広報部長、飯田会計部長 ・ 北河本部長提言 「来春 4 年 4 月の資格付与制度移行の解除に向け、プロジェクトチームを作って対応。指導員会のアンケートから端を発し、この制度についての共通理解を求めたい。また、柴田杯とベテラン研修会を指導員会の事業としてはどうか」 ・ まとめ アンケートの公表は一方的にしない。教育本部としては、一つの線で推し進めなければならない。両刀遣いは出来ない。柴田杯･ベテ研を指導員会でやるかどうかは機関決定が必要。簡単に事が運ぶとは思わない。
	※　教育本部としては、資格付与制度については現在調整中なので、指導員会が「アンケート」を実施する前にコンタクトをとってほしかった、の意向が強い。
H4,2,16 朝里川温泉スキー場	オーストリアスキー特別研修会 講　師:：エゴン･ヒールツェッガー（3 年連続） イレーネ・バインクネヒト（2 回目） 通　訳：田端夏葉デモ 参加者：37 名
	※　旭川でもオーストリア特研の開催希望があったが、日程調整がつかず見送り。
H4,8,9	第 7 回北海道スキー指導員会の集い（150 名）

旭川自衛隊	講演＜レルヒと日本スキー事始め＞　長岡　忠一 ・スカンジナビア半島から始まるスキーの歴史　・ナンセン「グリーンランド横断記」　・リリエンフェルト締具の発祥　・北欧スキーとアルペンスキー　・ズダルスキーの弟子レルヒ少佐　・レルヒ少佐、高田・旭川でスキー講習　・レルヒの後半世
	※　長岡忠一氏は、明治 44 年 1 月オーストリアのレルヒ少佐が日本に初めてスキーを教えた高田師団長岡外史師団長のお孫さんでありスキー史研究家である。
H4,8,22 雪印パーラー	＜北海道スキー連盟教育本部と道指導員会との懇話会＞ (「資格付与に関するアンケート」についての 3 回目の会合) ・　指導員会：栗林会長以下常任幹事 10 名 「このアンケートが時期不適切だと叱られたわけだが、本来であれば教育本部がやるべきことではなかったか」 ・　教育本部：北河本部長以下担当理事 8 名 「あくまでも、アンケートは指導員会がやったもので我々の心配したことが直接影響がなければ、やったものはそのまま出していい」
	※　指導員会と教育本部との立場の違いが出てきた。
H4,9,6 東京食糧会館	平成 5 年度日本スキー指導員会総会報告 ・　資格付与制度について（SAJ 谷・元木当理事） 文部省原案は,「SAJ の準指・指導員制度の廃止」であった。が、SAJ の反対により「指導員制度の歴史的背景等を考慮し、特別措置として現制度の存続を認める(H3,11)」となり、「現行制度は継続、希望者は新制度もやってもよい」の二本立てとなり、4 年 4 月凍結解除となった。文部省は将来的には一本化を要望。
	※　資格付与は、移行講習会が始まった後にも名称（文部省認定か日体協認定か）の問題、スポーツ施設指導員と地域指導員の問題、単位の免除時数の問題等々、まだまだ解決しなければならないことが山積みであった。
H4,9,27 ホワイトランド・イン札幌	平成 5 年度北海道スキー指導員会代議員会及び支部長会議（66 支部　6,793 名） （代議員 29 名、委任状 25 名、役員･支部長 24 名） ・　栗林会長挨拶 「資格付与制度は二本立てでいい。文部省は、将来的に一本化したいようだが、私は干渉される必要はないと思っている」 ・　会費値上げ　700 円→800 円 ・　予算 5,544,000 円
H4,10,1	シュプール第 20 号（復刊 13 号）発行 ・　特集＜「資格付与･移行措置・指導員制度」とアンケート集約結果＞ 資格付与・指導員制度について　北海道スキー連盟小林教育本部副部長 その他　3 本 教育本部との懇話会（8/22）の記録 アンケート集約結果（約 6 千名中約 2 千名が回答） 「資格移行が理解できない約 6 割。体協認定と理解約 4 割、国家認定約 4

	割。SAJ 指導員制度だけでよい約 6 割」 ・ 研究　7 本 ・ 紹介･報告「オーストラリア特別研修」など　6 本 ・ 随想　9 本 ・ 支部だより　3 本 ・ 事務局より
	※　アンケート 8 項目の回答をみると、一般指導員の戸惑いが濃く感じられる。
H5,1,24	オーストリアスキー特別研修会 講　師:：ガービー･モールゲンベッサー（女性） 通　訳：田端夏葉デモ 参加者：3２名
H5,7,18 スクワール麹町（東京）	平成 6 年度日本スキー指導員会総会報告 ・ 資格付与制度の現況 総会案内文書に「国家認定･･」の名称を誤記して迷惑をかけた（菅会長）。 日体協 54 団体のうち 35 団体が事業認定を受けている。当初の 11 団体から 3 倍に増え SAJ も前向きにとなった（元木 SAJ 理事）。 ・ 役員改選 規約の改正を行うまで現任のまま。
	※　会長人事について、南関東ブロック推薦の候補に対して現会長が続投意思を表明したため、今総会では調整がつかず規約を改正して 1 年以内に臨時総会を開いて会長を決めるとした。
H5,9,5 仁木町山村開発センター	第 8 回北海道スキー指導員会の集い（参加者 50 名） ・ 講演＜北海道一般スキー80 年の歩み余話＞　会長　栗林　　薫 ・ ビデオ鑑賞＜昭和 30 年代の室蘭指導員会の研修風景＞ 室蘭指導員会事務局長　高木　昌敏
	※　平成 3 年、余市支部から分かれた仁木支部（会員 16 名）が、余市支部と共催で「第 8 回集い」を開催する運びとなったが、途中、余市が「支部長入院」で共催を辞退し仁木の単独開催となった。数少ない会員ながら、茅野会長はじめ会員の皆様のご尽力とご協力で盛大にそして和やかに開催された。

１５、役員体制充実

H5,9,26 北電北２条クラブ	平成 6 年度北海道スキー指導員会代議員会及び支部長会議（66 支部　7,074 名） （代議員 28 名、委任状 22 名、役員･支部長 24 名、出席実数 52 名） ・ 一般経過報告 ・ 栗林会長挨拶 会員も 7 千名となり､毎年新しく準指導員も 500 名近く増えており喜ばしい。 全道的視野から役員も増やしたい。 ・ 日本スキー指導員会報告 自薦の現会長と、ブロックから複数の会長候補があり協議するも結論出ず、規約の不備を直すまで、現会長が留任という変則的なものになった。

・ 予算 6,562,253 円（内訳記載なし）
・ 規約改正
会員の増加に伴い、以下のブロックの幹事を増員
石狩・留萌方面２、富良野線方面１、オホーツク方面２、日高方面１
・ 役員改選
名誉会長　柴田　信一
顧　　問　二瓶　康典
会　　長　栗林　　薫
副 会 長　速水　　潔、坂井　敏夫、東野　靖信、中山　　浩、新田　利雄
浜　　司、飯島　　洋
監　　査　石井　年男、竹田　一郎
幹 事 長　近藤　　晃
幹　　事

部名	部　長	副 部 長	部　　員
総務	福地　　白	遠藤　明忠	鈴木　清二、伊藤　和彦、桜井　文雄 佐藤　政之、大塚　　博、宮越　　登 中川　昌治
事業	中川　　明	石田　勝洋	鈴木　忠芳、金子　重男、大黒善太郎 柴田　安雄、平岡日出夫、平　　誓子 谷口　幸治、蔵本　由典
広報	菊池真一郎	中尾　　誉	吉田　幾郎、菊田　哲夫、竹内　恒夫 畠山　　皓、田中　　貢、高松　隆常 高田　昌昭
会計	飯田　誠一	串　　力男	原　　栄、

※　幹事選出ブロックが、全道を網羅して現在の定数と同じ 32 名体制が出来上がった。しかし、選出ブロックとしては不適切な“〇〇方面”は、平成 15 年 9 月 28 日開催の代議員会での「規約改正」まで続く。

H5,9,30

シュプール第 21 号（復刊 14 号）発行
・ 特集＜佐藤哲郎顧問逝く（平成 5 年 7 月 7 日逝去）＞
弔　辞　　会長　栗林　　薫
「哲ちゃん！君はあまりにも早く我々を後に残して先に勝手に逝ってしまった。なんと悲しいことだろう。もう、来シーズンから哲ちゃんの、元気な昔と少しも変わっていないフォームを見ることは出来ない。私の悲しみは深い。およそ半世紀もの長い間、スキーの同志として、また、柴田先生の門下生として共に歩んできた私にとって、今、突如として哲ちゃんを失うことはあまりにもショックは大き過ぎる」
弔辞・追悼・偲ぶ　21 本
・ 研究　3 本
・ 紹介･報告「オーストラリア特研」など　4 本
・ 随想　12 本

	・ 支部だより　11 本 ・ 事務局より
	※　あとがきに「7 月 7 日、函館の佐藤哲郎氏急逝の訃報が入りました。誰しもが驚愕し耳を疑いました。佐藤先生は本会副会長、顧問の要職が長く、その多大な功績は枚挙に遑がありません。シュプールにはなくてはならない存在で、毎号に寄稿をねだっては無理を実現していただきました」と、菊池広報部長が述べている。
H6,2,3	オーストリアスキー技術特別研修会　中止
	※　講師マーク･ガルシア氏（仏）の来道がなかなか決まらず、案内が間に合わないため緊急相談の結果、中止と決定した。

１６、日指会長問題

H6,7,17 スクワール麹町	日本スキー指導者協会総会 ・ 資格付与制度の現状（元木 SAJ 理事） 二本立て。移行を中心に進んでいる。事業認定は平成 5 年が目途で 7 年で打ち切りだが、日体協とも話し合い打ち切らないようお願いした。 ・ 懇親会での会長人事についての栗林会長発言 大変不愉快である。1 年以内に総会を開くと言っておいて、今回のが定期総会だと押し切ったのは詭弁である。
	※　「菅会長自薦」から端を発した日指の会長問題は、「規約を改正し臨時総会で新会長を選任」の約束が守られなかったため、臨時・定期総会の議論に発展し、栗林会長始め道指導員会役員は大いなる不満をいだいた総会であった。
H6,9,17 アートプラザホテル(札幌)	第 9 回北海道スキー指導者協会の集い（110 名参加） ・ 講演＜老前・老中・老後を考える＞　　札幌市豊平保健所所長　濱本　淳二 「長寿国としてのこれからの私達の生き方について。人間と他の動物との違いと人間としての三つの条件。れからの私達の老前･老中・老後の生きる指針を示してくれた」 ・ 研究発表：指導員の原点について再考する 北海道スキー連盟教育本部 技術顧問　中村啓二郎 「長年のスキー指導者としての経験と難しさ、指導者として将来に向けて更なる希望と情熱」
	※　ラジオにレギュラー出演している医学博士・濱本先生の講演は、高齢化社会に向っている時流に合わせた講演会であった。 ※　この年、道連教育本部長に就任した小林俊勝氏（現本会顧問）が、来賓として出席頂き祝辞を述べている。
H6,9,30	シュプール第 22 号（復刊第 15 号）発行 ・ 巻頭言＜日本スキー指導員会の体質を問う＞　　会長　栗林　　薫 「規約では、2 年毎に行われる役員選挙に事前に各ブロックから候補者の選出し総会で選任、となっている」「南関東ブロックでは候補者が選出されてい

	るのに、現会長が続投の意思を表明し議事が混乱した」「役員改選のあるべき手続きをとらずに、1 年以内に総会を行う、規約を検討する、となった」「道指導員会として今回の総会は、定期総会とは認めがたく臨時総会とすること」「今回は 1 年以内に当たるので定期の総会である、の強弁で押し切られた」「1 年間も、選任されていない会長が居座るごときは前代未聞と言うべき」「このような状態に安住することを良しとするならば、何のための加盟か」 ・ 寄稿：長野オリンピックによせて　ドルフィンスキー学校校長　三浦雄一郎 ・ 特集：小室浪一顧問、水谷寛名誉指導員逝く 弔辞・追悼・偲ぶ　12 本 小室浪一前副会長遺稿 水谷寛名誉指導員遺稿 ・ 佐藤哲郎前副会長遺稿、随想 ・ 研究、随想　12 本 ・ 紹介、報告　2 本 ・ 支部たより　9 本 ・ 事務局より
	※　栗林会長は、菅日指会長の“居座り”に腹を据えかねて、いよいよ「道指導員会、日指導員会を脱退」を決意したのではないかと思われる。
H6,10,2 北電渓水荘 （定山渓）	平成 7 年度北海道スキー指導員会代議員会及び支部長会議（66 支部　7,298 名） （代議員 17 名、委任状 28 名、支部長 2 名、役員 23 名、出席実数 42 名） ・ 一般経過報告 ・ 日本スキー指導員会報告 最近の日指の運営については危機感がある。現会長の退陣を迫ることを他のブロックに呼びかけたい。 ・ 決算報告　収入合計 6,810,909 円
H7,2,12 朝里川温泉 スキー場	オーストリアスキー技術特別研修会 講師：エゴン・ヒールツェッガー 通訳：寒川美奈指導員 参加：21 名
H7,8,27 スクワール 麹町	平成 8 年度日本スキー指導者協会総会報告 ・ 資格付与制度（元木 SAJ 担当理事） 移行は 1 万人位済んだ。SAJ の二本立てはそのまま。 ・ 役員の選出について（栗林道指会長） 自分の組織から推薦されない人が会長として居座る。北海道は 9 月に総会がある。そこで決定されれば日本指導員会から脱退したいと思う。
	※　資格移行が順調に進み、SAJ も容認の方向か。 ※　「道指導員会の日指脱退予告」に、日指はどのような対応をするのだろうか。
H7,9,9 花びしホテル（函館）	第 10 回北海道スキー指導員会の集い（112 名参加） ・ スキー講話＜私とスキー技術選手権大会＞　SAJ デモ　我満　義治 ・ 記念講話＜民謡の心＞　民謡名人位　佐々木基晴

	「全日本デモの我満義治氏は、若いにもかかわらず FM ラジオの DJ をされていてバイタリティ溢れる巧みな話術で、これまでの全日本技術選における体験と苦労話などを中心に参加者をうならせる内容でした。 　また、地元在住の民謡名人位佐々木基晴氏は、函館弁丸出しで笑いを誘いながら自分と民謡との関わりや、これまでの世界中の人々とのふれあいなどを話された後、お弟子さんと民謡も数曲ご披露してくださいました」 （報告：坂口）
	※　函館ならでは、の異色の組み合わせの講話会が行われた。

１７、巨星墜つ

H7,10,1	シュプール第 23 号（復刊第 16 号）発行 巻頭言＜偉大なる初代会長柴田信一氏を失う＞　　会長　栗林　　薫 「氏のスキーに捧げられた生涯を偲ぶ時、改めて如何に偉大な指導者であられたか、そして不世出とも云うべき技術論者であられた感じをいっそう深くするところであります。（後略）」 特集＜柴田信一北海道スキー指導員会名誉会長逝去＞ 「北海道スキー指導員会名誉会長柴田信一氏は、去る平成 7 年 1 月 15 日逝去されました。人は柴田先生を『スキーの神様』と崇め、『恩師』と言って敬愛し、数々の薫陶と教授をうけました。全日本スキー連盟、北海道スキー連盟におけるご功労はもとより、日本スキー指導員会、北海道スキー指導員会等々の礎を築かれたのみならず、あまたの基礎スキー・競技スキーの指導者の育成と普及発展に寄与された勲は、万言を費やしても言い尽くせるものではありません。さらに、先生は常々スキー界の現状に甘んずることを潔しとせず、絶えず課題と未来志向を持ち続け、大所高所から将来展望の問いかけをして事あるごとに私共を啓発し、時には叱咤激励してくれました。その柔和な微笑みは誰しもが脳裏から離れ難いものがあるはずです。かけがいのない日本の大巨星を失いましたが、その輝きは不滅の星座の中に燦として永遠に存在するはずです」（菊池広報部長）
	※　本会の草創期から活躍してこられた偉大な先人達（佐藤哲・小室両顧問、水谷名誉指導員）の逝去が相次ぐ中、ついに「巨星・柴田信一先生」が亡くなられた。 ※　柴田先生には私もいろいろとご指導を頂きましたが、不遇の時「藤さん、必ずその時が来るからそれまで技術を落としたら駄目だよ」。あの優しい顔で言われ、技術研鑽に励んだことが忘れられない。
H7,10,8 ホテルノースシティ	平成 8 年度北海道スキー指導員会代議員会及び支部長会議（66 支部　7,635 名） （代議員 26 名、委任状 23 名、支部長・役員 22 名、出席実数 48 名） ・ 一般経過報告 ・ 日本スキー指導員会関係 この代議員会で決議されれば“日指脱会”する予定だったが、菅会長が 11 月の「臨時総会」で辞意を表明することになったため「脱会決議」は行わず。 ・ 決算報告　収入合計 7,363,039 円

・ 役員改選

顧　　問　二瓶　康典、東野　靖信
会　　長　栗林　　薫
副 会 長　速水　　潔、坂井　敏夫、毛利　修三、中山　　浩、新田　利雄
　　浜　　司、飯島　　洋、太田　初子、大塚　　博、原　　栄
監　　査　石井　年男、竹田　一郎
幹 事 長　近藤　　晃
幹　　事

部名	部　長	副 部 長	部　　員
総務	福地　　白	遠藤　明忠	鈴木　清二、伊藤　和彦、桜井　文雄 佐藤　政之、宮越　　登、安部　一行 内村健八郎
事業	中川　　明	加藤　修治	鈴木　忠芳、金子　重男、大黒善太郎 逢坂　道夫、平　　誓子、渡辺　　保 谷口　幸治、蔵本　由典
広報	菊池真一郎 (副幹事長)	竹内　恒夫	吉田　幾郎、菊田　哲夫、三澤　勝彦 畠山　　皓、平岡日出夫、高松　隆常 高田　昌昭
会計	飯田　誠一	串　　力男	阿部　恵一

※　本会初の女性副会長が誕生した。

H7,11,12
スクワール麹町

日本スキー指導員会臨時総会

・ 会長人事について（菅会長）

「ご迷惑をお掛けした。栗さんから指摘され、反省して今回辞意を表明する」

※　数年に亘っての「会長居座り問題」は、本人の辞意によってやっと解決した。本人が辞意を表さない限り会長は代らない、という長年の因習を引きずった不合理な組織運営である。

H8,3,3

オーストリアスキー技術特別研修会
講師：エゴン・ヒールツェッガー
通訳：寒川美奈指導員
参加：21 名

１５、分離・独立？「指導者連盟」に改称

H8,6,2
雪印パーラー

平成 8 年度第 2 回幹事会

・ 栗林会長発言

いま日本スキー指導員会は組織が脆弱で危機感がある。前会長の菅氏に退陣を迫ったが、彼のインタースキーを始め国際的な考え方に共鳴することも多く、「指導者の在り方」を共に構想している。将来的には、「指導員会」と「教育部」が一体化して、「競技部」と分離した組織を目指そうと。それはＩＶＳＩ（国際スキー指導者連盟）にもつながる。若い人達は行事に追われ、上意下達の組織の中で新しい考え方もなかなか出来ないようなので、教育部の理事ともコンタ

	クトをとっていく。 ※　この発言が、その後の本会及び各加盟団体の「名称変更問題」及び「教育部の分離独立問題」の幕明けとなった。 ※　当時、「教育部の理事」の一員であった私は、栗林先生に“教育部の分離・独立構想”のレクチャーをしっかり受けさせられた。
H8,6,9	平成9年度日本スキー指導員会総会 ・　資格付与制度について（元木SAJ理事） 日体協加盟52団体中、36団体が事業認定団体。SAJの有資格者移行は順調に進行16,000人程が移行。準指･指導員の移行は順調だが、コーチ等競技関係の受講が少ない。 ・　会長人事について 新会長に田英夫東京都スキー指導員会会長を選任。 ※　長年揉めていた「資格付与問題」は、移行が「順調に進行」の報告でなんら問題にならなくなった。
H8,8,31 芽室町中央公民館（十勝)	第11 回北海道スキー指導員会の集い（110名参加） ・　記念講話＜世界のスキー指導とその方向性＞ 日本スキー指導員会名誉会長　菅　　秀文 「インタースキーの歴史： 1951年オーストリア・ツールで第1回インタースキーが開催された。この当時はまだスキー教師と言うものはいなかった。日本では1939年（昭和14年）に既に指導者検定があったのだから日本は誇りに思っていい」 「組織：Ｉ.Ｖ.Ｓ.（国際スキー教育連盟）にスキー連盟として加盟している国は日本・韓国･ポーランドだけ。他の国は、必要に応じてそれぞれの団体がＩ.Ｖ.Ｓ.Ｉ.(国際スキー指導者連盟)、Ｉ.Ｓ.Ｉ.A.（国際スキー職業教師連盟)、Ｉ.Ｖ.Ｓ.Ｓ.（国際学校体育スキー部会）に加盟している。だから、団体は目的別にあるべきで、理想的には全日本スキー連盟の教育部は、日本スキー教師協会そして日本スキー指導員会を吸収して、一つの強力な指導者組織を作っていくべきであろう」 「指導の方向性：これからの指導者は、環境保全を考えることと、技術指導だけの職人ではなくエンターティナーでなければならないこと」 ・　スキー講話＜全日本技術選手権の変遷＞ 元SAJデモ・キロロスキー学校校長　細野　　博 ※　「日指会長問題」で、あれだけ怒り、非難していた菅前会長に「集い」の講演を依頼したことは、講演内容「一つの強力な指導者組織を作る」からしても栗林会長にある一定の思いが感じられる。
H8,10,1	シュプール第24号（復刊17号）発刊 ・　巻頭言＜再び危急存亡のときを訴える＞　　会長　栗林　　薫 ・　特集＜第33回全日本スキー技術選手権大会 第25回全日本デモンストレーター選考会＞ お礼とご挨拶　　実行委員長・教育本部長　小林　俊勝

	デモ選草創期の思い出　　会長　栗林　　薫 関係記事　19 本 ・ 研究　3 本 ・ 随想　17 本 ・ 紹介・報告　7 本 ・ 支部だより　2 本 ・ 事務局より
	※　この年 4 月、15 年ぶりにルスツスキー場で開催された“技術選・デモ選”を特集している。「挨拶」の他に「大会役員名簿」や「リザルト」「出場選手のコメント」など大量 31 ページにわたり掲載している。 ※　全国大会出場 2 回目にしてこの大会 13 位に躍進した山田卓也選手が、「渡部三郎選手を目標に」と書いている。今や“技術選”の顔となっている卓也君は充分、サブちゃんを乗り超えている。 ※　何度も道予選会挑戦するも全国出場が一度も叶わなかった私が、道連理事としてコース係長として大会に参加出来たことに感慨一入であった。
H8,10,6 ホテルノースシティ	平成 9 年度北海道スキー指導員会代議員会及び支部長会議（68 支部　7,940 名） （(代議員 25 名、委任状 33 名、支部長・役員 14 名、出席実数 40 名） ・ 一般経過報告 ・ 本会の名称変更提案（栗林会長、入院中のため近藤幹事長提案） 「北海道スキー指導会」を「北海道スキー指導者連盟」に名称変更提案 議論百出するも、出席代議員 25 名中 21 名の賛成で名称の変更が決定 ・ 決算報告　収入合計 7,558,672 円
	※　栗林メモの「新しい組織作りが必要」に基づいて、新しい方向に向けて名称が変更された。その根拠として 6 月 7 日の幹事会で、 ①　準指導員が毎年 500 名ずつ増えている ②　そもそもが「指導者」の名称であって「指導員」ではない ③　センセーショナルな感じだが、「競技部」との分離・独立を議論する時期ではないか。 と「教育部」「指導員会」が合併して独立する構想を述べている。
H9,2,16 朝里川温泉スキー場	オーストリアスキー技術特別研修会 講師：ベルント・クレーバー、エゴン・ヒールツェッガー 通訳：鈴木辰夫・久保英二両オーストリア国家検定教師 参加：65 名
	※　国際スキー技術選で２連覇したＢ・クレーバー人気で参加者が増加した。

１６、資格付与制度問題、一先ず終息

H9,7,12 チサンホテル浜松町	平成 10 年度日本スキー指導員会総会 ・ 資格付与問題（丸山 SAJ 教育本部長） 指導員制度と社会体育指導者制度との二本立てでいく。この件で、5 月の国会で田英夫日本指導員会会長（参議院議員）が発言していただき感謝してい

	る。それ以来、文部省の圧力がピタリと止んで、冷静に考えることが出来るようになった。 ・ 栗林会長発言 北海道は、分離独立の受け皿として「指導員会」を「指導者連盟」と改称とした。日指も改称の必要がある。 ※ 田会長の国会での質問により、「資格付与問題」が収束に向った
H9,8,30 稚内総合文化センター	第 12 回北海道スキー指導者協会の集い（100 名参加） 講演＜スキーと私＞ 元全日本デモンストレーター 浜辺 秀樹 講演＜昨今思うこと＞ 会長 栗林 薫 「現在のスキー連盟は非常に肥大化して、いわゆる肥満児になっている。競技部門のノルディック、アルペンのほかにフリースタイルを始めスノーボード、パトロールなどを抱え、昔の領域とは違って非常に肥大化した連盟になっている。そこに基礎スキー部門が混在している状態で、各部門がそれぞれの機能を充分発揮することができるだろうか、私は大きな疑問を抱かざるを得ない」 ※ 栗林会長は、「指導員会」を「指導者連盟」に改称した持論を展開した後、「教育部」の分離･独立のための受け皿としての改称である、としている。
H9,10,1	シュプール第 25 号（復刊 18 号）発刊 ・ 特集＜資格付与、指導者・組織の在り方＞ 第 140 回国会参議院決算委員会における、田英夫議員（日指会長）の質問に対する小杉隆文部大臣、及び佐々木正峰文部省体育局長との質疑応答の一部始終を８ページ掲載 ・ 研究 7 本 ・ 随想 16 本 ・ 追悼 二瓶康典先生を偲んで 5 本 ・ 追悼 スキー仲間を偲ぶ 5 本 ・ 紹介、報告 8 本 ・ 技術レポート 3 本 ・ 支部だより ・ 事務局より ・ 付録「北海道スキー指導員会の沿革」 ※ 田会長の質問は、文部大臣から「文部省としては押し付けがましいことは一切しない。各スポーツ団体の意志に任せる」という答弁を引き出し、これが、「文部省の圧力がピタリと止んだ」との丸山 SAJ 教育本部長の報告に繋がった。 ※ 昭和 62 年に出された「文部省認定社会体育指導者資格付与制度」は、ここに一応の決着を見た。この間、オーストリアのような「国家検定教師」の幻想をいだいたり、逆に国家統制、或いは全日本スキー連盟の「指導員制度」の崩壊の危機を心配したり、と右往左往させられた。また、「国家認定」とうたいながら、実は「日体協認定」の欺瞞性にも不信感が高まった。 結局、50 有余年の伝統ある「指導員制度の歴史」がこの決着を生んだ。

※　「二本立て」状態は今でも続いている。私は菅日指名誉会長の（H20,7 北見での講演）「文部省官僚が、日体協への天下りの手土産のための制度」の話を聞いて“ 日体協指導者 ”を捨て、“ 全日本スキー連盟指導員 ”一本である。

（次回に続く）

＜あとがき＞

前々号から始まったこの「歩み」は今回で終了の予定であったが、我々指導員の身分に関わる「文部省認定社会体育指導者資格付与制度」の大騒動、また、日指会長問題が持ち上がり、多くの誌面を割かざるを得なかったため、次回に続くことになった。次回もまた、名称問題、分離・独立の問題と本会の屋台骨をゆるがせるような問題が続く。

今年 7 月開催の「集い・上富良野大会」の懇親会の折、坂井会長がステージで“ スキー小唄 ”を唄い大合唱となった。これは（“ スキーアラカルト ”とも）昭和 3･40 年代にスキーの宴会の席でよく歌われた私以上の年代にとっては懐かしいものである。是非遺したいと思う。

ス　キ　ー　小　唄

1、僕のスキーはウイスキー
街の酒場をスラローム
鬼門・鬼門に引っかかり
ついに会社をダウンヒル

2、雪の女王とおだてられ
無理して買ったヒッコリー
一度も履かずに盗まれた
油断もスキーもありゃしない

3、嫌がる親父を無理やりに
スキー滑りに誘ったら
転んで舌をカンダハー
殺スキーかと怒鳴られた

4、オーストリースキーはニュースキー
フランススキーもニュースキー
ホテルのロビーでロターション
指導員会よ　シーハイル！！
※1　※2

※1、自分達の団体名に置き換えて
※2、これに続けてシーハイル三唱

＜参考資料＞
- 北海道スキー指導者協会機関誌 シュプール第 17 号～第 26 号
- 文部大臣認定「社会体育指導者の知識・技能審査事業」
（商業施設における指導者／初級）『C級教師教本』 財団法人 日本体育協会（H2,10,1 発行）
- 栗林薫編著「北海道一般スキー八十年の歩み」（H３,８,１発行）
- 柴田信一先生遺稿集（H8,1,15 発行）
- 長岡忠一「文明への模索」（H18,10,31 発行）